

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

【単元名】 同和問題と自分

【単元の目標】 同和問題について正しく理解し、その解消に向けて、正しく行動しようとする意志を育む。

【単元の流れ】(全9時間)

時	過程	ねらい	学習活動	留意点
1 2	わか か る	同和問題がどのようなものであるかを知り、これまで差別に苦しみながら生きてきた人がいることを知る。	課題 同和問題の歴史を知ろう ①DVD「部落の歴史 中世～江戸」を視聴する。 ②差別の成り立ちをワークシートで確認する。	★既習内容と結びつけながら確認する。
3	わか か る	同和問題の現状を知ることを通して、今もなお差別が残っていることを知る。	課題 同和問題の現状をつかもう① ①2年の総合や公民で学んだことを思い出す。 ②現在の差別の状況を知る。 DVD「同和問題と人権」を視聴する 28分 ③本時の感想を書く。	★DVD は現在の取組。ワークシートに記入しながら視聴する。 ★差別はなくなっていないことを理解させる。
4	わか か る	同和問題の現状を知ることを通して、今もなお差別と立ち向かっている人々がいることがわかる。	課題 同和問題の現状をつかもう② ①実際に差別に苦しんでいる若者を知る。 ・映像資料「バリバラ」(25分)を視聴し、現在も差別に立ち向かっている人がいることを確認する。 ②自分なら、結婚できるだろうか?【感想】	★終わりの解決策はここでは見せない。未だに結婚問題が残っている事実をつかむ。
5	深 め る	自分だったらどう行動するかを考えることを通して、自分の中にある差別意識や弱さに気づくことができる。	課題 自分ならどう行動するだろう ①これまでの学習を振り返り、なぜ差別が起こっているのか確認する。 周りの目 世間体 無関心 他人事 ②「私の場合」(前半60行まで読む) ③自分が主人公だったとき、あなたはどうしますか。【結婚する 迷う 結婚しない】 ④仲間の発表を聞いて、自分の考えを再度振り返り感想を書く。	★結婚できる →本当に差別に立ち向かう強さがあるのか? ★迷う、できない →迷うの意味することは?親や子どもを盾にして自分の差別心を見ていない弱さに気づく。
6 7	深 め る	自分自身の弱さや不安に打ち勝ち、筆者のような生き方をしようとする強い願いをもつことができる。	課題 自分の弱い心に打ち勝つためには ①「私の場合」(後半60行まで読む) ②反対していた母親の気持ちが変わっていったのはなぜか。 ③差別に負けないために大切なことは何か。	★母親の気持ちが変わったのは、私の強い意志によって動かされたことに気づかせる。
8	育 む	差別の構造を科学的に理解し、自分が差別の構造に陥っていないか、振り返ることができる。	課題 差別の構造を知ろう ①動画「青い目 茶色い目」を視聴する。 ②差別の構造について考えたことを交流する。	★字幕なので、なるべく前方で見させる。
9	育 む	その他の差別について考え、これまでの人権学習を振り返り、偏見に負けずに強い意志をもちたいという思いをもつ。	道徳「伝えたいことがある」 差別や偏見をなくすために ①大石さんが姿を隠すように東京へ出た理由はなんだろう。 ②結婚が破談になった時の気持ちを考える。 ③語り部になる決意ができたのはどうしてか考える。	★今までの人権学習を振り返る。

『自分の問題としての同和問題』

第5時 「よりよい生き方への意欲①」

<本時のねらい>

自分だったらどう行動するかを考えることを通して、自分の中にある差別意識や弱さに気づくことができる。

学習活動	留意点
<p>1 第4時のアンケート結果を提示する。 ○もしも結婚を決意した相手が同和地区出身者だったら、あなたはどうしますか。 ア 結婚する () 人 イ 結婚できない () 人 ウ 迷う () 人</p> <p>2 資料「私の場合」60行目まで読み、自分が主人公ならどうするか、再度考える。</p> <p>3 自分自身の問題として考えさせ、自己を見つめさせる。 <ア：結婚するを選んだ人> ・私も差別されていじめにあったことがある。だから、差別されている人の気持ちがよく分かる。私は相手にそんな思いをさせたくない。そんな人間になりたくない。 ・自分は今までどこか他人事として学習していたように思う。自分だったらどうするかと尋ねられて、初めて自分の問題として真剣に考えた。やっぱり差別を許してはいけない。大切な人を裏切ることには私にはとてもできない。大好きな親も差別者にはしたくないから、説得したい。 <ウ：迷うを選んだ生徒> ・差別はいけないと言うことは分かっているけど、自分がその立場になったら迷うと思う。周りから反対されて説得できる自信がないけど、相手も裏切りたくない。 ・はっきり言ってどうしていいか分からなくなると思う。今までの学習で、絶対に差別は許せないと考えていたけど、そんなに反対されたら親や周りに負けてしまうかもしれない。 <イ：結婚できないを選んだ生徒> ・これまでの学習中も、差別について怒りを感じたが、結局自分も周りの目を考えてしまう。親や親戚の人たちにまで反対されて、本当に幸せになれるとは思えない。相手には悪いが、親を裏切れない。 ・私も自分のことになると結婚できないかもしれない。自分も差別されるかもしれないと思うと怖い。自分のことばかり考えていて恥ずかしい。 <仲間の意見を聞いて考えた生徒> ・私は、イの立場だった。そう思うと自分が嫌で仕方がない。そんな自分に絶対になりたくない。でも自分の中に差別心は残っている。こんな自分が嫌だけど、結局自分のことしか考えていない。自分もアになれるようになりたい。どうすればできるのだろうか。 ・自分も差別をするような人間にだけはなりたくない。でも周りの反対を説得できるような強い人間ではないように思う。どうすればできるのだろうか。</p> <p>3 これからの自分の生き方を考える。 ・今までの学習で差別は絶対にしてはいけないと思っていたが、自分ならどうするかと聞かれて、迷う自分がいた。そんな自分が嫌だと思った。やっぱり差別をするような人間にはなりたくない。差別に負けないような強い自分になるにはどうすればいいのだろうか。次の時間にさらに仲間と交流して考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識を的確に把握し、指名に生かす。 ・アの立場の生徒に、批判するだけでなく、イやウの立場の人にその間違った思いを変えてほしいという願いを語らせる。 ・周りの目を気にする自分や他のせいになっている自分に焦点をあてて話し合いができるように補助発問していく。 ・イやウの立場の生徒で、差別を認め、受け入れてしまいそうな自分自身の弱さを変えていきたいと思っている生徒に話をさせる。 ・自信がないという意見で終わらないように、どうしたいのかを話させる。 ・自分自身の心の中の葛藤について語らせた上で、自分の弱さを見つめ、乗り越えたいという思いを話させる。 ・これまでの学習の意義と、これからの課題を明確にする。